

来館者の動向と意識調査

——個人来館者を対象として——

教育普及係

1 はじめに

当岐阜県博物館は、昭和51年5月岐阜県が置県100年の記念事業の一環として自然豊かな百年公園内に開館した。本年5月をもって8周年を迎える。開館以来の入館者総人数は昭和58年12月末で約860,000人を記録している。この数は、年平均約10万人、1日平均390人ということになる。この間、当館は社会教育機関としての役割をも担いながら、県民から愛され親しまれてきた。また研究機関としても調査・研究・収集等を積極的に推しすすめ展示活動に反映させてきた。今後さらに内容充実を図るとともに来館者に親しまれる博物館として発展させていかねばならない。

そういった観点から、来館者一般がどのような意識、要望を持っているのかを具体的に把握する必要から実態把握をアンケート形式で行った。これまでも、特別展を中心に意識調査、実態調査を実施してきたが、今回は、特に、不特定多数の個人来館者を対象に具体的な意識調査を試みた。個人来館者の目的意識、来館回数、どの地域からの来館者なのか、本調査ではかなり具体的な数値となって表れたのではないかと思う。

2 調査概要

調査対象	個人入館者（小学生以上の入館者全員、団体入館は除く）
実施方法	受付においてアンケート用紙を渡し、帰り時に回収する
調査期間	昭和58年1月11日～5月15日（106日間）
調査用紙	他館の調査票を参考に、教育普及係で作成し選択法のほか記述法をとった。小・中学生用と一般用と区別した。（p56参照）

3 調査用紙の配布と回収

2の概要で述べた方法で手渡し、記入後受付で回収した。回収するにあたっては、渡しの時に依頼するのみで、特に請求することはしなかった。来館者の意志を尊重し自主性にまかせた。

一般の53.3%、小中学生の60.2%の回収率は当初予想した以上に高回収率であった。1月・2月の約70%の回収率に比して4月・5月が低くなっているのは、来館者が2・3回めとなっていること、1・2月の来館者の層の意識と4・5月の来館者の意識の差であろう。

第1表 配布数・回収数と率

月	日数	全入館者数	一 般			小・中 生			計	
			配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布率	回収率
1	17	2,374	1,188	780	65.7	489	379	77.5	70.6	71.6
2	23	2,426	1,593	1,006	63.2	533	366	68.7	87.6	66.0
3	27	5,109	2,209	1,286	58.2	1,253	862	68.8	67.8	63.5
4	26	6,723	2,596	1,340	51.6	1,516	910	60.0	61.2	55.8
5	13	11,112	3,539	1,514	42.8	2,283	1,141	50.0	52.4	46.4
計	106	27,744	11,125	5,926	53.3	6,074	3,658	60.2	61.9	56.8

調査関係者 中島良大、平井昭彦、長谷川恵子、蔦木伸子、酒井真由美、各務章子、成瀬清美、鈴木智子、
（s57年度）谷口真由美

4. 岐阜県博物館の位置

当館は、置県100年を記念して設定された百年公園（関市小屋名）内に建設された。周囲は緑の松林で丘陵地になっており、全体が公園になっている。そういった立地条件、環境条件は博物館にとっては極めて適しているといえよう。

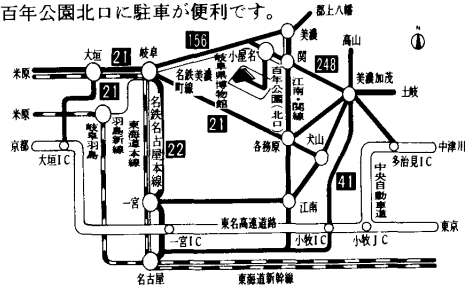
交通機関

岐阜駅からバス・白金線・名鉄電車、美濃町線の公共機関と156号線、248号線の国道がある。また、名古屋方面からは江南・関線があり便利さは比較的良好。

環境

関市小屋名の丘陵地全体が百年公園（100ha）であり、サイクリングロード、テニスコート、遊歩道、トリム広場など設備されている。その中に当館が一角を占めている。当館の背後には自然観察の小道も設けられて、各種の樹木、植物が学習できるようになっている。身近な里山の自然がそのまま残されている生物群集豊かな自然公園といえる。

名鉄美濃町線 小屋名下車 徒歩約15分
岐阜バス
乗用車は百年公園北口に駐車が便利です。



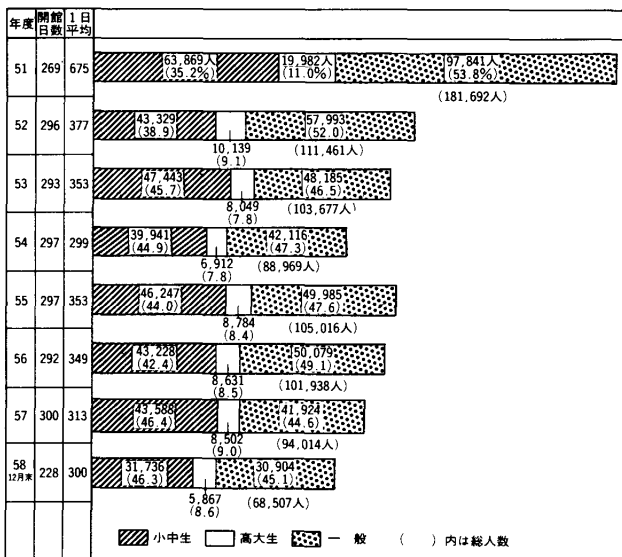
5 個人来館者の動向と意識調査の分析

(1) 年度別来館者の動向

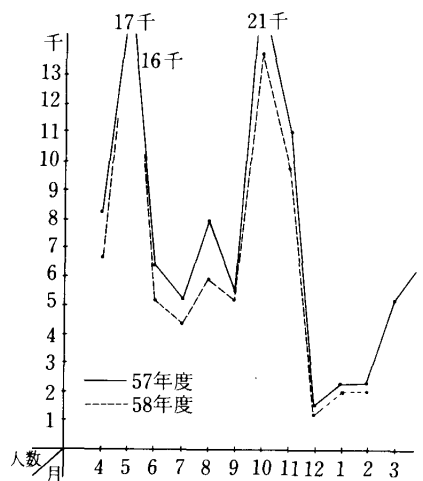
ここに当館開館以来の動向をみてる。開館年次の51年度を別にしてその後、平均約10万人の来館者を得てきた。途中54年度、57年度は10万人を切り、さらに58年度は12月末現在で約6.8万人と開館以来の低調さである。過去、平均約10万人の来館者は一応の定着化の様相を呈したが、昨年、今年度と減少現象は残念である。その原因と考えられることは、一つに7年・8年と時を経るに従って展示に新鮮味を欠いてきたこと。二つに近在近郷に近代的な博物館が設立されてきたため、当館への足が遠のいたということなどが挙げられる。来館者の内訳をみると、一般48%，高大生8%，小中学生44%となる。個人入館者56%，団体入館者は41%，その他3%である。*

(2) 月別来館者の動向（昭和57年・58年）

第2図 年間総入館者数



第3図 月間来館者



一年を通しての来館者の月別傾向は、5月、10月、11月が圧倒的に多いことがわかる。これは、学校団体の遠足、社会見学によるものである。

※総入館者数の内訳表（平均）

個人 56%	団体 41%	免除 3%
一般 48%	小中学生 44%	

(3) 性別・年代別動向

	小学生 31%	中学生 8%	高校生 4%	20代 26%	30代 18%	40代 7%	50代 6%	60代 7%	
男	16%	5%	2%	13%	10%	5%	2%	1%	(55%)
女	15%	3%	2%	13%	8%	2%	1%	1%	(45%)

第4図から、来館者の55%が男性・45%が女性を占めている。男性では小学生16%、20代13%、30代10%、女性では小学生15%、20代30%、30代8%となる。小学生、20代の来館者が全体のほぼ57%の大半を占めているのが目立つ。20代から30代が全体の約半数を占めているが、これは、この世代の知識欲によることもあろうし、一方公園へ家族連れで来る親・子（小学生）という組み合わせの現象が考えられる。

(4) 職業別動向

第5図

小・中生	40%	会社員	24%	主婦	11%	公務員	8%	高大生	7%	自営業	5%	自由業	3%	教員	2%
------	-----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	----	----

第5図の傾向は、他県における県博の調査傾向とほぼ同じである。会社員の24%は、A県においても同じであるし、教員2%は、A県、B県においても2.3%、3%と低い率を占めているのが特徴である。その理由の一つとして、学校団体で引率来館すること、幅広い分野としては見るべきものがあるが、専門的分野になるとニーズを満たすことに多少欠けるといえるところになるといえる。

(5) 同行者の動向

第6図

一般	1人 5%	友人 39%	家族づれ 50%	グループ 6%
小・中生		友人 47%	家族づれ 52%	

(6) 来館者の来館回数の動向

第7図

一般男	初めて 58%	54%	2回目 21%	20%	3回目 10%	11%	4回目 4%	4%	5回 8%	11%
一般女		63%		18%		10%		4%		6%
小男	初めて 33%	31%	2回目 20%	22%	3回目 14%	15%	4回目 7%	7%	5回 26%	24%
小中生女		35%		24%		13%		7%		21%

来館者の来館回数をみると、表のように一般、小中学生とも男女の傾向は同じである。小中生は5回以上が24%と多い率を占めている。これは、近郊の小学生の来館によるものである。他の回数

率は、一般は初めてが58%、回数を追うごとに減少している。初めての来館者が多いこと、2回め3回めと伸びていかない点について一考を要すところである。小中生については、比較的バランスがとれている点は望ましいことである。今後、初回が約60%を占めることからPRの繰り返しと、2回め3回めと来館意欲を抱かせるだけの魅力、期待感を館自体がどれだけ、“もの”の魅力と展示内容の魅力をつくるかというところに視点をおかなければならない。

(7) 来館者の地域別動向

第8図は、岐阜県内の個人来館者を地域別に分けた表である。県内来館者が77%、県外からの来館者が23%を占めている。

県内の地域別をみると、岐阜地区52%、美濃地区24%を占め、あと西濃、可茂、東濃、飛驒地区と続いている。市町村別では、(第2表参照)岐阜市31%、関市14%、各務原市11%、大垣市5%などが利用率が高い。

第2表から、特筆すべきことは、愛知県からの来館者が一般22%、小中学生15%、計20%を占めることである。市別にみると、名古屋市、一宮市、江南市、犬山市等が率が高い。

これらの利用率から考えられることは、博物館との距離関係による地域差である。第8図の円形に示すように、内円は1時間以内、外円は1時30分～2時間(車による)である。大方、その円内の人々の来館が高利用率を占めているといえる。一方、博物館の普及率を考えると、やはり、飛驒地区、東濃地区は手薄になっていることは否めない。しかし、名古屋市、一宮市など愛知県からの来館者が予想以上に多いことは、普及率だけでないものがあるといえよう。

愛知県以外の県からの来館者数も第2表からわかるように全国各県から来館してもらえることがわかる。全体の約3%を占めている。

参考までに団体別・地域別来館状況表を掲げるが、一般来館と同様の傾向を表している。

第3表 地区別等団体入館状況表 昭和58年4月1日→昭和58年11月30日

区分 地区名	小学校		中学校		高校・大学		子供会		婦人会		PTA		老人クラブ		その他		合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
岐阜地区	26	3,447	5	342	10	1,963	14	482	1	103	1	36	3	125	32	1,341	92 (29)	7,839
西濃地区	16	1,701	1	103	1	37	6	360	-	-	-	-	-	-	11	394	35 (11)	2,595
美濃地区	14	1,001	-	-	1	22	2	82	1	26	-	-	-	-	6	269	24 (8)	1,400
美濃加茂地区	7	699	1	103	3	87	3	107	2	55	-	1	26	7	222	24 (8)	1,299	
東濃地区	15	1,857	1	93	2	216	1	59	1	20	1	36	1	20	7	223	29 (9)	2,524
飛驒地区	9	456	2	206	-	-	-	-	2	55	-	-	-	-	11	295	24 (8)	1,012
合計(県内)	87	9,161	10	847	17	2,325	26	1,295	7	259	2	72	5	171	74	2,744	228 (73)	16,669
愛知県合計	23	3,827	12	3,289	5	1,905	22	1,490	3	71	2	61	1	36	13	526	81 (26)	11,205
その他の都道府県	1	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	432	8	465
合計(県外)	24	3,860	12	3,289	5	1,905	22	1,490	3	71	2	61	1	36	20	958	89 (27)	11,670
総合計	111	13,021	22	4,136	22	4,230	48	2,580	10	330	4	133	6	207	94	3,702	317	28,339

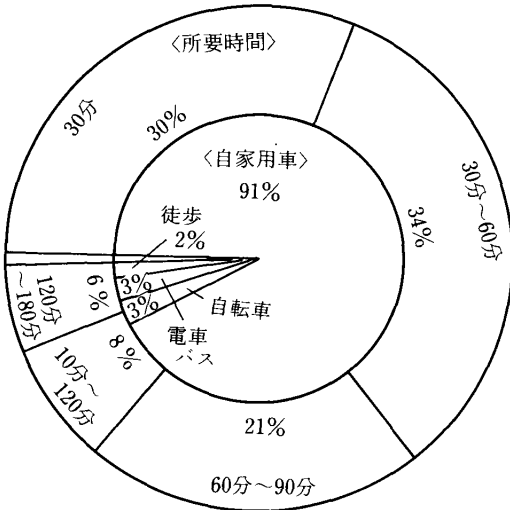
()内%

第2表 地区別利用状況表

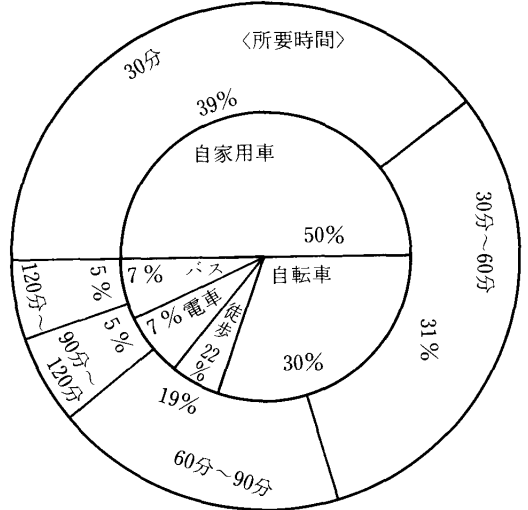
	一般A	県内%	小中生B	県内%	A+B	県内%		一般A	県内%	小中生B	県内%	A+B	県内%
岐阜市	1,375	32.2	85.6	30.7	2,231	31.6	東海市	5		4		9	
羽島市	116	2.7	46		162	2.2	豊明市	2				2	
各務原市	515	12.0	256	9.1	771	10.9	岡崎市	5				5	
羽島郡	81		33		114	1.6	豊橋市	4				4	
本巣郡	145	3.4	84		229	3.2	常滑市	1				1	
山県郡	79		56		135	1.9	刈谷市	2				2	
岐阜地区合計	2,311	54.2	1,331	47.7	3,642	51.6	安城市	3				3	
大垣市	289	6.7	53	1.9	342	4.8	半田市	1				1	
海津郡	28		1		29		碧南市	2		3		2	
養老郡	26		5		31		大府市	2				5	
不破郡	36		7		43		西尾市	1				1	
安八郡	67		15		82		愛知県合計(B)	1,312	22.3	503	15.1	1,815	19.7
揖斐郡	109		28		137	1.9	北海道	7				7	
西濃地区合計	555	13.0	109	3.9	664	9.4	秋田	1				1	
關門市	398	9.3	903	27.2	1,301	14.1	新潟	7		1		8	
美濃市	99		92		191	2.7	千葉	7				7	
武儀郡	49		20		69		茨城	4				4	
郡上郡	111		36		147		東京	17		2		19	
美濃地区合計	657	15.4	1,051	31.7	1,708	24.2	埼玉	2				2	
美濃加茂市	113	2.6	28		141		山梨	1				1	
可児市	170	3.9	60		230	3.2	静岡県	13		2		15	
加茂郡	87		34		121		神奈川	10		1		11	
可児郡	28		20		48		長野	20				20	
可茂地区合計	398	9.3	142	4.2	540	7.6	福井	14				14	
多治見市	99		30		129	1.8	石川	9		2		11	
土岐郡	11		1		12		富山	13		4		17	
土岐市	57		10		67		滋賀	43		1		44	
瑞浪市	32		4		36		和歌山	20		1		21	
恵那市	23		2		25		京都	1		2		3	
中津川市	14		9		23		兵庫	19		3		22	
恵那郡	11		1		12		奈良	21		2		23	
東濃地区合計	247	5.8	57	1.7	304	4.3	大阪	17				17	
高山市	29		29		58		山梨	3				3	
益田郡	37		37		74		山島	3				3	
大野郡	20		20		40		香川	2				2	
吉城郡	12		12		24		高知	4				4	
飛騨地区合計	98	2.3	98	3.5	196	2.7	愛媛	1				1	
愛知県(郡)	283		114		397		福岡	2				2	
名古屋市	289		63		352		福鹿	6				6	
一宮市	250		106		356		児島	5				5	
江南市	138		74		212		沖繩	4				4	
春日井市	62		20		82		大分	1				1	
小牧市	52		36		88		福岡	1				1	
尾西市	44		7		51		長崎	1				1	
犬山市	64		26		90		岩手	1				1	
岩倉市	27		8		35		宮崎	1				1	
稲沢市	41		16		57		青森	1				1	
豊田市	15		5		20		県外合計C	288	4.9	21	0.06	309	3.3
津島市	9		13		22		県外(D)	1,600	27.2	524	15.8	2,124	23.1
瀬戸市	7		7		14		合計A+D	5,866	100%	3,312	100%	9,178	100%
豊川市	3		1		4								

(8) 博物館までの所要時間と交通機関

第9図 所要時間と交通機関（一般）



第10図 所要時間と交通機関（小・中生）



30分～60分までの所要時間をかけて来館する人々が全体の60%を占めている。次いで60分～90分が20%、それ以外は同じ割合である。所要時間については、地域と交通機関に関係もっていると考えられる。

90%が自家用車使用であることから、その範囲は、博物館を中心に15～30kmの円の中に分布している各市町村の来館者と考える。(8図参照)

小・中学生では30分～60分をかけて来館する生徒が全体の70%を占めている。これは、一般と同じ傾向を示している。30分以内の来館者の割合が一般と比べて若干高いのは、自転車利用者が30%を占めることと関係する。これは、関市、特に博物館周辺の小学生の来館が多いことと関係する。徒歩22%などはそのことを物語る数値である。

(9) 博物館への来館者の動機

今回の意識調査の中で、来館動機がどこにあるのかということが興味あるところである。これによって、当博物館が来館者にとってどのような意味をもつものかをも知ることができる。

第11図 来館の動機

一男 般女	百年公園へ来たので入館	46%	時間つぶし	子どもにせがまれ	興味がある展示をくわしく	どんなに変わったか	調査	特別展(資料展)	
		55%	10%	8%	14%	6%	3	10%	
		51%	11%	8%	13%	5%	2	6%	8%
小中生 女	百年公園で遊んだついで	30%	勉強のため	おもしろいから	なんとなく	特展	他		
		40%	21%	18%	10%	6%			
		35%	25%	19%	9%	8%		4	

来館の動機が、百年公園へ来たので入館したというのが、一般51%、小中生35%の割合を占める。1月～3月までのデータによると、一般49%、小中生35%となっている。これらの割合をみると、約半数が百年公園へ来たついでに入館した者で、残りの半数は目的は異なるが、博物館をある程度意図として来た人々といえよう。

小・中生になると、博物館をなんらか意図して来館した者が約%を占めている。これは、一般に比べ比較的、目的的に来館しているのではなかろうか。このことは、入館回数とも関係してくる。回

数が増す人ほど目的意識をもって入館する割合が高くなっている。第7図の来館回数を参考にみても、初めては一般で58%、小中生で33%、そのうち、百年公園へ来たついでというのはほとんどである。2・3回と重ねる人達にとっては、博物館との距離は次第に接近してきているといえる。特別展見学、常設展見学とそれぞれの展示物、展示内容への関心も高くなってきているのではないか。このことは、これからの博物館のあり方、すなわち、館の展示そのものが一般の人々に興味、関心を引くものであること、館全体が一般の人々にとって、もっと身近に魅力ある存在として内容を充実させていかなければならない一つの方向を示唆しているといえよう。

(10) 特別展(資料紹介展)を何で知ったか

第12図

一般	ポスター	だより チラシ 案内	日刊 新聞等	知人に 聞いて	くらしと 県政	教育 広報	博物館へ来て知った	T	V
	6%	8%	7%	10%	4%	2%	58%	3%	1%
小・中生	ポスター	チラシ	学校で	友人から	博物館へ来て知った		T	V	他
	10%	9%	11%	14%	49%		3%		4%

当館では、教育普及係を中心に当館の各種の催しものに関して各広報機関、報道機関を通して広報普及に努めている。しかし、現実には第12図が示すように、一般、小中生ともに博物館へ来て知った入館者が58%、49%の割合を占めているということである。各種の広報(ポスター・だより・チラシ・新聞等)は各々5~10%にしかすぎない。これは、ポスター・チラシの広報枚数の制限によるPR不足は否めないが、一方、前項目(第11図)の動機との関連で見ると、百年公園へ来たついでに入館した割合と、博物館へ入館して知った割合とはほぼ比例していることである。注目すべきことは、知人・友人に聞いての10%、14%である。ロコミによるPRが高い事実を活用したい。

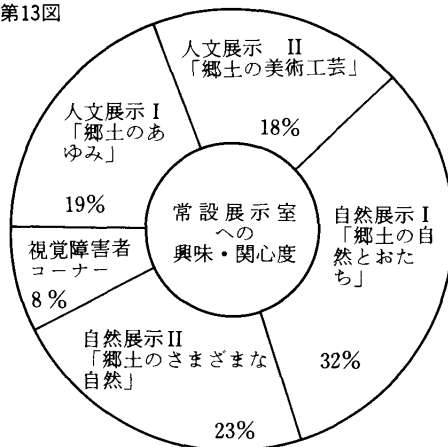
参考までに、特別展に限っての調査では、ポスター・新聞など13%と高くなる。各催しもの参加者対象にすると県広報紙(くらしと県政)が20~30%と高率になる。チラシは23%である。

(11) 展示についての意識・関心調査

① 常設展示室の興味・関心度

第13図のデータが、必ずしも来館者一般の興味、関心度を表すに良しとすべきものでない。それは、来館者の目的、意識によってその差はありうるわけで、これは、あくまでアンケートによって表れた数値にほかならないということである。第13図によると、自然展示室Iに寄せるものが最も高く、次いで自然展示室II、人文展示室、そして、視聴障害者コーナーという順になっている。これは、コンパニオンが解説するコースでもあり、来館者のほぼ全てが回る順でもある。人文展示室I、IIまでくると、かなり疲労感を感じる人が多いということを考え合わせると、必ずしも興味、関心度の差だけではなく、疲労度の度合いが影響していることもあると考える。

第13図



自然展示室に対する割合が高いことについて・入館して最初に見る展示室・実物資料が多いこと・人文に比して自然展示はガラス越し展示が少ないことなどが挙げられる。特に自然展示室Iに

は展示のテーマにもとづき系統性があること、デスマスチルスやオオツノジカ、化石など来館者を引きつけ、圧倒する大型資料があることが、要因の一つでもある。このことは、また、自然展示室 I・IIとの差を生み出している要因とも考えられよう。

人文展示室については、自然展示室 I・IIのような差（9%）をみないのは、実物資料が少ないということ、当館人文展示の特長を表す“もの”あるいは、来館者の心に響く“もの”が少ないということなど、両室に言えることから。

② 展示と施設についての意識と問題

a 常設展示について

良い 67% 改善 3% 無答 30% 前項とも関連するが、およそ67%の者は展示内容を認めているが、むしろ、他の33%を十分考察してみる必要がある。初回の来館者の全てが持つ感想は立派である、という。これは施設設備を含めての感想である。しかし、2回3回と回数を重ねた来館者が33%の中にいる。

「いつ来ても同じ展示物で変わりばえがない」「展示物を多くとり替えてほしい」など、展示物の新鮮さを期待する声が目立つ。中には、「内容がない」と手厳しい言葉もある一方、「植物生物を顕微鏡で調べることができる」といふ。手に触れながら学べる博物館を期待する声もある。「常設展示」とは固定化された展示の型態をとらざるをえないわけであるが、一般は、変化を求めているということである。

一方、小・中学生のとらえ方をみると、「おもしろかった」「勉強になった」という声が大半を占めている。これは、子ども達の知識欲、感激性に由来するものであろう。そういった中で、考えていかなければいけない意見は、「本物を置いてほしい」「触れることができるといい」という感想が比較的多い事実である。

第14図の小・中学生の展示物印象度によるとやはり自然展示に興味を示している。図の中で火おこし器に15%の興味を示しているところにこれからの博物館のあり方の一つ、すなわち、自分で体験する、触れる実感を与える展示コーナーの必要性を思うのである。

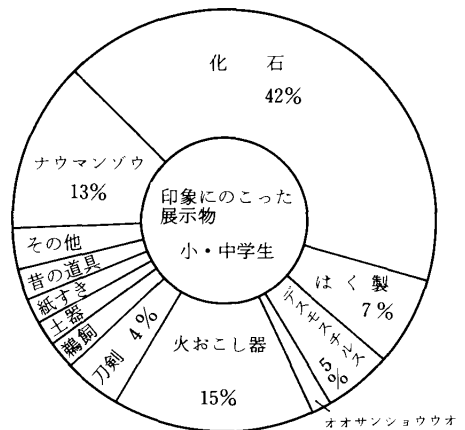
総じて、特に小学生達はいつも新鮮な目で展示物に対峙しているということがいえる。「何回来てもあきない」という子どもがいるように。

b 展示解説について

展示解説に関して「わかった」と答えた人が81%を占める。「わかった」が大部分であるが、「説明をくわしくていねいに詳細な説明がほしい」「～がよくわかる」式の自分だけがわかるような解説文でないこと」という要望が多い。「総合的な解説がない。点的な解説で流れが感じられない」等、本質にかかわるきびしい指摘があった。

さらに感想をこまかくみると、「字が小さい」とか「ふりがなをつけて読みやすく」といった表記からはじまり、「説明のことがむずかしい」「この事物の背景を解説してほしい」と内容面にも及んでいる。内容面については、「小学校高学年」にも説明がわかる解説文になるといいとする反面、「専門的な解説がほしい」ともいう。解説文作成にあたっては、一般にも専門家にも子どもにも応じていける配慮が今後なされていかなければならないことが、ここに指摘されているように思う。展示物の解説だけでなく、それが生きた時代背景をより簡明にとらえることができるような内容を

第14図



もりこんで解説文が作成されることを期待されている。

近年、特に映像機器の普及により、各博物館、資料館等にVTR、マルチスライドが導入されて映像による展示、映像による展示解説等が普及している。特に中学生にとっては、VTRによる解説を望む声も多く、今後映像機器を導入して両者相まって解説等を付加していく必要がある。

c 視覚障害者コーナーについて

当館の「視覚障害者コーナー」は、目の不自由な人々を対象として、触察により理解できる資料を公開し楽しんでもらうことを目的として、昭和54年11月に設置されたコーナーである。全国的にみても、あまり類をみないコーナーとして評価を受けている。

このコーナーは、単に視覚障害者の人々へのサービスだけでなく、一般来館者、特に子ども達に大変人気のあるコーナーでもある。とかく博物館の展示というものは、ガラスケース用に展示され、ガラス越しに顔を近づけて見なければならぬ。模型や複製等の裸展示の場合でも、ロープでさえぎられ展示物には絶対触れてはいけないようになっていっているのがほとんどである。そこに、ひとつもの足りなさを感じながら見たり聞いたりするわけである。だから、自由に触れることができるということは、魅力である。

約70%の人々が、設置に意義を認めている。特に子ども声の中に「このコーナーだけでなく、さわってもいい所をふやしてほしい」とあることは、「もの」と「人」との触れ合いの問題を提起しているといえるのではないか。

d 施設、設備について

「よい」と答えた人は70%を占める。来館者の大方は「立派な設備だ」という。「感じが良い」「館内が美しく気持ちよく見た」自然と調和した白亜の殿堂は、特に初の人にとっては印象的である。広いスペースをとった正面ホール、各所に休憩所が設けられていること、展示室が広くゆとりがあることなどが評価されている点と思う。しかし、一方、「換気を十分にしてほしい」「臭気がある」「展示室が暗い」などの苦情もあった。これが、8月の真夏時であれば、もっと空調面での苦情が多いかと思われる。

e 職員（コンパニオン）について

「良い 44%」「普通 55%」全体としてはまあまあの評価を受けていることはうれしいことである。しかし、中にはきびしい意見もある。謙虚に反省し自己研修をしていきたい。

「大変親切に説明してもらえてよかった」 「コンパニオンがいなかった」

「質問がある時は、気軽に聞けるように近くにいてほしい」

「コンパニオンの解説を多くしてほしい」 「学芸員・コンパニオンの機能を充実すること」

当館には6人のコンパニオンがいる。そのうち1～2名が受付、1名は図書資料室が主たる勤務場所であり、他の2～3人で案内していることがこういった声に反映しているといえよう。

「コンパニオン解説があることを知っている」一般は13%、小中生は35%、その内解説を聞いた人は一般では1%、小中生13%である。解説を申し出る一般来館者はまれである。当方から積極的にはたらきかけて来館者の中に入りこんでいくことがなによりも大切であると痛感している。しかしそこには相手とのタイミングの問題もあって極めてむずかしいことを常に感じている。

③ 関心度について

博物館の内容をより多くの県民に知ってもらうためにPRをしているが、そういったPRに対してどれだけの関心度を示しているかを次の図によってうかがい知ることができる。

第15図、16図のように、博物館からの情報が一般に知られていないパーセントが70%～80%を占めることである。来館者の声の中には「もっとPRをすべきだ」「各町内にまでもポスターを掲示してほしい」といった広報活動の拡大を期待する声は大きい。

第15図 博物館発行のポスター・チラシへの関心度

一般	見る 8%	時に見る 20%	見ない 72%
小・中生	見る 12%	時に見る 23%	見ない 65%

第16図 博物館催しものへの関心度

一般	知っている 19%	参加した 2%	知らない 79%
小・中生	知っている 21%	参加した 12%	知らない 67%

この割合は、(10) 第12図とも関連している。来館者の60%が特別展、資料紹介展へ入館して初めて知ったという事実は、ポスター・チラシを見ない、催しものがあることを知らない割合と同じとみてよいのではないか。

一般 { (見る8% + 時々見る20%) } - { (知っている19% + 参加した2%) } = 7%
 小中生 { (見る12% + 時々見る23%) } - { (知っている21% + 参加した12%) } = 2%

この数値は、チラシ・ポスターを見ていても催しものがある内容を知らない、記憶していないという事実である。参加度については、一般2%、小中生12%と小中生の数字は高い。(小中生はほとんど小学生)しかし、全体的にみれば、大変低いものであり、さらにねばり強くより広く呼びかけていかねばないを考える。

試みに現在実施しているPR活動を掲げてみると、

- ・ 県の広報機関を通して、広報紙とラジオとテレビで
- ・ 報道機関 各日刊新聞、各放送局・TV局
- ・ 博物館だより(年3回) ポスター(特別展用1700枚) チラシ(各月5000枚)
- ・ 博物館催しもの案内(年間共通 各機関配布と受付配布 20,000枚)

(12) 博物館への要望いろいろ (頻度数の多いもの)

- ・ これだけの施設と展示を持ちながら、常設展示の図録(解説書)がないのが残念。
- ・ 特別展の図録(出品目録)など全体的に専門家への対応が不備。
- ・ 映像による展示解説(VTR, アニメなど)をすともっと興味が広がるのではないか。
- ・ 人文展示の質(模造品が目につく)が落ちるのではないか。
- ・ 展示物の名称だけでなく、使用目的、方法など詳しく解説してほしい。
- ・ 自分たちが参加できる(手づくり、触れる)博物館を志向してほしい。
- ・ 広報、PRを強化する。
- ・ 博物館でこれだけの敷地があり駐車料金をとられる所ははじめてである。無料を望む。
- ・ 入場無料にして気軽に来れるようにしてほしい。
- ・ 終了時間の延長、夜間開館も考えてほしい。

来館者の多くは、博物館に関しての情報不足と視聴覚的展示の不備と実物資物の不足をあげている。また、興味深い展示、詳細な解説を希望している点などから、総じて博物館とは、よくいえば“近づきたい”他の一方からは“近づきたい”存在のように見えるようである。

子どもの側からみると、“勉強になった、おもしろかった”というのが圧倒的に多い。これらはその中味を吟味しないといけないが、極めて好ましいことである。おそらく、現在学校で学習してい

る内容と関係づけて見た子どもの言ではなからうか。一方、さわれる、操作できるものがほしいという素朴な願望を持つ子ども達も多い。このことは、これからの博物館が“見る博物館”から“触れる博物館”“体験できる博物館”への志向が“学ぶ博物館”への発展への示唆である。

13) 期待する特別展

ページ数の関係から一つ一つは省くことにするが、期待する特別展は極めて多種多様である。それらをまとめて言えば、“全体に地味な催しが多い。画期的な催しものを実現してほしい”とか、“岐阜県にこだわらない催しもの”“重要文化財をより多く見たい”など、県内はもとより県外にわたって貴重な文化財、地方では見ることのできない文化財、珍しいものを見る機会を多くしてほしいというのが一般の人々の素朴な願望といえよう。

6 おわりに

約9,600枚のアンケートの事実と事実の背景分析に不備な点は多々あるにせよ、一応まとめることができた。アンケート実施の過程の中で、整理・まとめの中でさまざまな問題点ができた。一つには、総花的で焦点化されていないこと、二つにデータ処理の問題、三つに分析・考察が表相的・一般論的なものに終わったこと等々。しかし、はじめにも述べたように、過去にこういった全体的傾向を把握する機会を逸していただけに、今回の仕事は、まがりなりにも一応知りえたことに意味づけた。

開館7周年を経て実施したということは、初期の段階でのデータとは別に、10周年あるいは15周年を迎えていくにあたり、岐阜県博物館として県の中央博物館として存在していく方向や内容を示唆するものが得られたという点において価値がある。開館まもない数年は、珍しさ見たさや話のタネに一度はといった大衆的意識で利用する人も少なくない。しかし、満7年8年と経過するに従ってこういう意識の利用者は減り、むしろ博物館を愛する人、博物館で学ぶ人、博物館を憩の場として出かける人々等、質的に変化していくと考えられる。これからこそ、岐阜県博物館が博物館として存在価値を発揮していく正念場にさしかかっているともしえる。

現に、昨年度あたりから入館者総数は激減しつつある。種々の事情、原因はあろうが、今後大切なことは、内容の質をどう改め高めていくかということである。近年、県内の各市町村に各種の郷土資料館やそれに類する博物館相当施設が設立されていく状況にある。そういった中で当館も県文化財を有する館として、生涯教育の一環を担う社会教育施設であるという認識を一層強くして、県民に広くサービスしていかねばならない。今後、県の中央博物館として県内各資料館、郷土館等との連携を密にする一方、情報センター、データバンク的役割を果たしていくことが志向されるものと期待したい。

このささやかな資料が、博物館利用者の要求に応える基礎データになったり、さらに濃度のあるデータを得る資料になれば、調査関係者として幸いに思うところである。各位のご意見ご指導を切に願いたい。

最後に、この調査に応じていただけた入館者の皆様と、参考資料を提供していただいた各県の博物館のご厚意、並びに館当局のご援助に感謝の意を表す。

※ 参 考

1. 参考アンケート (名称のみ)

- ・青森県立郷土館報(1981)8号
- ・栃木県博
- ・奈良民族館
- ・富山科学文化センター
- ・岡山県博
- ・仙台市博
- ・神奈川県博
- ・埼玉県博
- ・名古屋科学館
- ・大阪市博
- ・沖縄県博
- ・群馬県博歴史博紀要(1981)2号
- ・北海道開拓記念館報告書(1974)6号

教育普及係：未来館の動向と意識調査

2. 実施アンケート用紙

一般用

(一般用)

(月 日)

本日は御来館くださりましてありがとうございます。当館ではより良い博物館をめざして皆様の御意見を伺っております。以下のアンケートにお答え下さるようお願いいたします。

記入場所：郷土学習室に筆記用具が用意してあります。お帰りの時に受付又他のアンケート箱に入れてください。

○印と記入とでお答えください。

問1. あなたのことに

性別 男 女

年齢 () 才

職業 1. 自家営業 2. 自由業 3. 会社員 4. 公務員 5. 教員
6. 主婦 7. 高大学生

住所 県内の人 () 市 () 町 () 村 ()
県外の人 () 県 () 市 () 町 () 村 ()

同行者 1. なし(1人で) 2. 友人と 3. 家族と 4. グループで

来館数 1. 初めて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目 5. 5回目以上

問2. お出かけくださった動機は、つぎのどれにあたりますか。

1. 百年公園に来たので立ち寄った
2. 時間つぶしに来た
3. 子どもにせがまれたので連れて来た
4. 博物館の展示内容に興味を持っているから詳しく見に来た
5. 博物館がどんなに変わったかを見に来た
6. 調査、研究のために来た
7. 特別展(資料展)を見に来た
8. その他()

問3. 今おこなっている特別展(資料展)は何で知りましたか。知ったものすべてに○印をつけて下さい。

1. ポスター 2. 博物館だより、チラシ、案内など 3. 新聞、雑誌
4. テレビ、ラジオ 5. くらしと県民 6. 教育広報 7. 知人に聞いて
8. 16銀行柳ヶ瀬店ウインドウ 9. ここへ来て知った 10. 他()

問4. どの交通機関で来られましたか。

1. 一般バス 2. 名鉄電車 3. 自家用 4. 自転車(オートバイ)
5. 徒歩 6. 他()

小・中学生用

(小・中学生用)

(月 日)

きょうは、はくぶつかんへ来てくださってありがとうございます。

このアンケート用紙に答えてください。

郷土学習室にえんぴつがありますから、そこで書いてアンケート箱に入れてください。また受付に出してください。

○印をつけてください。

問1. あなたのことに

男 ・ 女 小学生 ・ 中学生

すんでいる所 県内の人 () 市 () 町 () 村 ()
県外の人 () 県 () 市 () 町 () 村 ()

いっしょに来た人 1. なし (/ 人で) 2. 友だちと 3. 家族と

今までに来た回数 1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目
5. 5回目

問2. ここへ来たわけはつぎのどれですか。

1. べんきょうのために来た
2. はくぶつかんがおもしろいから来た
3. 百年公園で遊んでついでによった
4. なんとなくはくぶつかんに来た
5. 特別展(資料展)を見に来た
6. 他()

問3. 今やっている特別展(資料展)のことは、どこから知りましたか。知ったものには○をつけてください。

1. ポスター 2. はくぶつかんのチラシ 3. テレビ、ラジオ
4. 学校(先生から) 5. 友だちから聞いた 6. 来たらわっていた
7. 他()

問5. あなたののおすまいから(旅行中の方は宿から)当博物館まで、どのくらいの時間がかかりましたか。

1. 30分まで 2. 30分～1時間 3. 1時間～1時間30分
4. 1時間30分～2時間 5. 2時間～3時間 6. 他()時間

問6. この博物館におられた時間はおよそどのくらいですか。

1. 30分 2. 30分～1時間 3. 1時間～1時間30分
4. 1時間30分～2時間 5. 2時間以上()まで

問7. どの展示室に興味を持たれましたか。(3つまで)

1. 人文展示室 / 2. 人文展示室2 3. 自然展示室 /
4. 自然展示室2 5. 視覚障害者コーナー(触察コーナー)

問8. つぎのことについてお答えください。

1. 設備 / よい 2 普通 3 気付いたこと()
2. 展示解説 / わかった 2 はずかしい 3 気付いたこと()
3. 視覚障害者コーナー(触察コーナー) / よい 2 改善するとよいこと()
4. 常設展示についてお気付きのことを書いてください。 / よい 2 改善するとよいこと()
5. 職員(コンパニオン)の応待 / よい 2 普通 3 気付いたこと()

問9. 博物館についてつぎのことを知っていますか。

1. 博物館チラシ・ポスターを町に目にする。 / する 2 時々する 3 しない
2. 催しもの(講演会・教室)があること / 知っている 2 知らない 3 参加したことがある
3. コンパニオン解説があること / 知っている 2 知らない 3 解説してもらった

問10. 岐阜県博物館をより良くするための、あなたの要望をいろいろな点から書いてください。

1. 博物館に対して
2. 希望する特別展

ご協力いただきましてありがとうございました。

問4. なにで来ましたか。

- 1 徒歩 2. 自転車 3. バス 4. 電車 5. 車にのせてもらって

問5. あなたの家から、ここまでのどのくらいの時間かかりましたか。

1. 30分 2. 30分～1時間 3. 1時間～1時間30分
4. 1時間30分～2時間 5. 2時間以上

問6. つぎのことを知っていますか。

1. はくぶつかんのチラシ、ポスターを学校や町で見ますか。 /、見る 2、時々見る 3、見たことがない。
2. はくぶつかんでもよおし物(教室など)があることを知っていますか /、参加したことがある 2、知っている 3、知らない
3. コンパニオン(説明する人)の説明があることを知っていますか /、聞いたことがある 2、知っている 3、知らない

問7. てんじについて思ったことを書きせてください。(よかったことやおねがいうこと)

問8. てんじのうち心にのこっているものを2～3つあげてください。

問9. はくぶつかんで、てんじを見るのにどのくらい時間かかりましたか。

1. 30分 2. 30分～1時間 3. 1時間～1時間30分
4. 1時間30分～2時間 5. 2時間以上

ありがとうございました。アンケートを入れるはこまたは受付に出してください。